

本学会が戦略的に取り組んでいくべき課題

戦略的プロジェクト担当理事 成田 伸（自治医科大学看護学部教授）

私は渉外担当理事として助産師団体連絡会等
に出席し、平成17年度に立ち上がった看護系学
会等社会保険連合（看保連）には看護技術検討
委員会に委員として参加してきました。この時
期、学会に求められる役割は急速に拡大し、研
究の積み重ねによる看護の実証だけでなく、そ
の結果を社会にわかりやすく伝え、社会的な問
題に対して学会として発言し社会改革に結びつ
けることが強く求められるようになってきてい
ます。本学会としても、果たすべき役割を先駆
的に検討しエビデンスを意図的に集積する必要
性が高まり、平成20年度に戦略的プロジェクト
として立ち上げることになりました。

本プロジェクトの主要な活動として、①日本
看護系学会協議会、助産師団体連絡会、看保連
等を通じての他団体との連携、②医療技術評価
提案に向けた研究の検討の継続に加え、③母性
看護専門看護師の育成と活動支援があげられま
した。

専門看護師制度が立ち上がった時点から、専
門看護師の育成と活動支援はそれぞれの看護系
学会がエビデンスの側面から支援するものでし
た。本プロジェクトの活動として、平成21年度
学術集会において「専門看護師教育課程の構築
～母性専門看護師の育成～」と題する交流集会
を開催し、その後も毎回の学術集会において継
続しています。また、平成25年1月には「母性

看護専門看護師と教育・研究者の交流会」を開
催し、母性看護専門看護師との交流を深め、彼
らの活動支援につなげようとしています。

医療技術評価提案についての検討の結果から
は、今後提案を目指す看護技術として、①母乳
育児支援技術（乳腺炎発症褥婦への乳房治療技
術）、②妊娠糖尿病産後管理、③切迫早産妊婦
の在宅・外来管理、④避妊・感染症予防支援
技術（性犯罪・性暴力被害者支援技術を含む）、
⑤産後うつ病の予防管理の5つを看保連に提案
しています。そのうち②については、成田が中
心となり他施設共同による「妊娠糖尿病女性の
産後継続支援介入研究」を企画し、今年度の学
術集会において母性看護専門看護師を含め参加
を呼びかけました。まずは年度内に本プロジェ
クトの研究活動として始動する予定です。この
5つのテーマの研究に会員の方々の積極的な参
加を期待しています。

看護を取り巻く社会情勢の変化は急激で、短
期の期限内に学会としての意見を求められるよ
うになっています。母性看護、助産の実践の発
展に向けて、母性看護専門看護師のさらなる育
成と活用に向けて、ぜひ本学会が主導できれば
と思います。それを支える活動が本プロジェク
トの使命と考え、活動を継続していきたいと思
います。

第15回日本母性看護学会学術集会を開催して

第15回日本母性看護学会学術集会長 吉沢豊予子（東北大学大学院医学系研究科教授）

東日本大震災から丸2年が過ぎた宮城の地で、第15回日本母性看護学会学術集会を開催させていただきました。全国各地からおよそ350名の会員、非会員の方々に御参集いただき、盛会な学術集会となり皆様へ感謝申し上げます。

今回のテーマは、「母性看護学の洗煉一家族・父親・夫とともに」でありました。基調講演では母性看護学創設者でもある前原澄子先生にこれまでの母性看護学の変遷をお話いただきました。この講演は多くの聴衆に自分たちが行ってきたケアが母性看護学を基盤にしていたものであることをあらためて気づかせ、深い感銘を与えていただきました。講演の最後で先生は、これからの母性看護学の行く末をどう導くかの宿題をもらったようでもありと述べ、しかし、これを皆さんにバトンタッチしたいとも結ばれました。この言葉は次に続く者たちへのエールでありました。

私たちは、この学会で、テーマの副題でもある家族の存在、父親の存在、夫の存在を強く主張し、次世代の健全な育成のためには、父親を子育ての主人公にすえ、母親とダブルキャストであることのコペアレンティングを主張しまし

た。この主張を補完してくださるかのような特別講演の「父親の子育てがあたりまえ社会」は、非常に興味深く皆様一人一人に印象の残る講演でした。先駆けて看護で父親、男性ケア研究されているシンポジストの先生方には多くの父親ケアの知見をいただきました。また、この学会では、東北地方、東北大学をある意味で全面に出させていただきました。東北大学が行っているエコチル調査、これも次世代の健全育成には非常に重要な調査であることを皆様へ知っていただくきっかけとなりました。東日本大震災と周産期領域研究は、震災以後何が問題であったかを明確にしてもらいました。

今回演題数は66題と非常に多く、口演・示設と活発なディスカッションが展開しました。CTG体験コーナーも初の試みでした。慣れない学会運営であり、参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたこともあろうかと思えます。ご容赦いただければ幸いです。そして最後に、この学術集会にむけて準備をし、学会を成功裡に導いてくれた関係者の皆様へこの場を借りてお礼を申し上げます。



第16回日本母性看護学会 学術集会のご案内

第16回日本母性看護学会学術集会長 遠藤 俊子（京都橘大学 看護学部教授）

第16回日本母性看護学会を京都の地で開催させていただくことになりました。水無月（6月）末の京都は、1年の丁度折り返し地点にありこの半年の罪や穢れを祓い、残り半年の無病息災を願う「夏越の祓（なごしのはらえ）」といわれる神事が行われます。

日本母性看護学会の目的は、母性看護学の進歩発展を図り、母子および女性の健康と家族の福祉に貢献することにあります。広く国民のニーズや母子保健領域における政策として現在、国民総運動として2001年より開始した「健やか親子21」の最終年度になろうとしていま

す。この運動は、まさに日本の母子や家族の抱える課題に取り組み、中間評価をしながら達成していこうとするものであり、母性看護学の課題と大きくオーバーラップします。最終評価年度にどのように評価され、今後を展開するのか大きな関心と関与を願うものであります。

そこで、本学術集会のテーマを『周産期看護と健やか親子21』といたしました。日々の看護実践や研究活動でのエビデンスを構築すること、エビデンスに基づいた看護実践を行うことは誰しもが願うことでもあります。学術集会は、まさにその知見を交し合う交流の場であるはずで

す。1日限りの開催ですが、同課題をもつ研究者や実践者の交流ができる機会として、プログラムを準備いたしました。京都で夏越の祓をして、リカバーしましょう。



メイン
テーマ

周産期看護と健やか親子21

会長 ● 遠藤 俊子
(京都橋大学看護学部・大学院看護学研究科)

日時 ● 2014年6月28日(土) 9:00~18:00

会場 ● 京都橋大学 清香館
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 TEL&FAX: 075-574-4250

第16回学術集会公式サイト URL: <http://16.bosei.org/>



母性看護CNSとしてCTG (Cardiotocogram)をどう生かしていくか

国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院 中井 愛

日本母性看護学会では2009年よりプラクティカルCTG (Cardiotocogram) 判読スペシャリスト1st認定コースが開催されるようになり、今年度で5回を迎えました。

私は、大学院CNSコース在学中に本セミナーの講師であられる池田智明先生のご指導を仰ぐ機会に恵まれた経緯から、このセミナーに継続的に演習アシスタントとして関わらせていただいて参りました。これらの経験は、現在、私が母性看護CNSとして活動するための礎になっています。これらの学びをどのように母性看護CNSとしての活動に生かしているかについてご報告させていただきます。

CTGについて学び始めた当初は、ただ、正確に判読することで精一杯でしたが、毎年セミナーに関わらせていただくうちに、CTGはただ正確に判読できるだけではいけないことに気付きました。そして、その波形の意味することをその母児の疾患背景や病態生理を踏まえて理解し、分娩ケアに繋げていくことが必要であるということを感じることになりました。それには、CTGの発展してきた歴史的変遷や、新生児蘇生との関連、疾患や分娩期の病態生理を含む産科学や助産の広い知識を合わせて考えていく力が必要です。CTGは、偽陽性率が高く、その扱いには判断に苦慮することも多いのですが、これらのことを理解できるようになると、1つの波形に一喜一憂するのではなく、

系統的に分娩をレビューできるようになり、起こっている事象の関連を考えることができるようになってきました。そして、自分の関わった分娩は、必ず、後方視的にレビューし、看護の妥当性を評価することが不可欠で、この作業を分娩と共に携わった仲間と共に、日々の実践の中での繰り返しレビューしていくことは能力向上のために何よりも大事なことです。それを続けていくと、1つ1つの分娩がすべて勉強になり、次に自分が関わる分娩では、母児がより元気な状態で分娩を終了できるようになりたいと全てが生きた教材に思えてきます。

この経験を通して、私は、現在、母性看護CNSとしての「実践」において、分娩介助時にこれらの力を発揮することはもちろん、所属している病棟の同僚から判読に迷った分娩についての「相談」、所属病棟での勉強会の企画開催、地域の看護協会や近隣の大学助産課程の学生や潜在助産師を対象にした講義活動の「教育」等において、母性看護CNSとして、CTGを活用しています。

CNSには、高度な看護を提供する臨床家として、自分の行う看護を理論や言葉で説明でき、適切なアセスメントのもとに看護を提供できることが求められており、CTGも然りであります。今後も自分が学んだことを臨床現場で広く活用し、微力ながら看護の質向上に努めていきたいと思っております。

各分掌からのお知らせ

1. 編集(日本母性看護学会誌)

編集では、学会誌の刊行を担当し、毎年3月15日に発行しています。多くの査読委員の先生方のご協力をいただきながら担当理事2名、編集委員3名、担当幹事1名が編集作業に携わっております。これまで、論文の査読、修正の期間が短く、査読者および投稿者に負担をおかけしていたため、投稿締め切り日を今年度より1週間早め、毎年9月の第3金曜日必着とさせていただくことになりました。日頃の研究成果を発表、共有する場として、皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

尚、掲載された論文の著作権はすべて本学会に所属しており、本学会の承諾なしに他誌に掲載することは禁じられております。論文の著作者本人がインターネット上で公開することについては、本学会では機関リポジトリへの掲載に限ること、発行から1年経過後であること等の条件を設けています。本学会誌の著作権ポリシーの詳細については、学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ)でご確認くださいようお願いいたします。

(河野洋子理事)

2. 学術・教育支援

○第8回日本母性看護学会セミナー開催

下記の要領で開催予定です。事例研究に関心のある方はぜひご参加いただきたいと思えます。

なお、詳細が決まり次第、ホームページ等にも掲載いたします。担当は服部律子理事です。

① 日時：平成26年3月1日(土)
13時～16時

② 場所：岐阜県立看護大学

③ テーマ：母性看護における事例研究の
意義と方法

④ 講師：黒江ゆり子氏

(岐阜県立看護大学・教授)

(町浦美智子理事)

3. 研究促進

研究促進では、学会員の研究活動の促進を目的に活動しています。主な活動は、1. 会員が申請可能な助成金等の情報を提供すること、2. 若手ならびに臨床で働く研究者の支援を行うことです。1つめの活動は、会員が申請できる助成金等の情報提供をホームページ上に掲載しております。2つめの活動は、若手研究者あるいは臨床で働く会員の研究活動を促進するために平成21年度より研究助成制度を設け、平成22年度より助成金支援を実施しています。平成26年度研究助成の募集は、平成26年1月から2月末まで行います。若手研究者や臨床で働く方の研究活動を支援したいと考えております。3年以上の会員歴のある方は研究代表者としてご応募できます。是非ご応募いただきますようお願い致します。

(工藤美子理事)

4. H25年度CTGセミナー報告

○第1回CTGセミナー2nd

平成25年3月23日（土）北里大学白金キャンパスで、第1回CTGセミナー2ndを開催しました。参加者は32名であり、三重大学大学院医療系研究科池田智明先生の講義と演習を行いました。また、幸いにもCTGの先駆的研究者であるJulian Parer先生の特別講義を受ける事が出来ました。当日は森恵美理事長もかけつけ、周産期看護の質向上に向けた母性看護学会の活動について熱い思いを語って下さいました。



○第5回CTGセミナー1st

平成25年8月17日（土）18日（日）東北大学星稜キャンパスで、第5回CTGセミナーを開催しました。参加者は112名です。東北地方の方々だけでなく、全国から参加頂きました。講師は、池田智明先生、三重大学産婦人科学教室

村林奈緒先生、榊原記念病院産婦人科部長桂木真司先生の3名です。参加者の皆さんは講義終了後も先生方を取り囲み熱心に質問をされていました。第5回の参加者を含め5年間で470名がCTG1st修了の認定を受けています。

CTG1stの参加希望者は年々増加しています。次年度はCTG1stの研修会を2度開催する

予定です。詳細は時期が近づきましたらホームページに掲載いたします。

次年度

第6回CTG1stセミナー

日時：平成26年3月8日（土）・9日（日）

場所：北里大学白金キャンパス

第7回CTG1stセミナー：

8月頃開催予定 場所：京都橘大学

（島袋香子理事）

5. 会 計

一般社団法人化に伴い、本会の会計業務には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の定めにより、適時に、正確な会計帳簿を作成し、計算書類（貸借対照表及び損益計算書等）を作成し、10年間保存、ホームページ等での公示を行う義務が生じました。また講師謝金等の支出に対して源泉徴収税を納付すること、本会の活動が収益事業とみなされる場合には課税されるなど、税金上の対応が生じています。

さらに、学術集会の会計を本会計に統合する必要があり、学術集会自体は前年度からの準備が必要なことから、年度に跨る複雑な会計処理となっています。このような会計業務の変化に伴い、より厳正かつ適切な会計処理を実施すべく、平成24年度からところ会計事務所と契約を結び、中間決算、決算書の作成、全般的な会計処理について専門家の立場からの監査を依頼しています。会員の皆様方におかれましては、今後とも会費の年度内納入にご協力いただきますようお願いいたします。

（鈴木幸子理事）

事務局からのお知らせ

1. 平成25-26年度役員の方掌について

一般社団法人化に伴い、役員の変更は行わなかったため、平成25-26年は以下の役員で運営を致します。

分掌	担当理事	担当幹事	委員
理事長	森 恵美		
副理事長	高橋 眞理		
庶務	坂上 明子 高橋 眞理	小澤 治美 前川 智子 香取 洋子	
会計	鈴木 幸子	芝本 美紀	
編集	河野 洋子 石井 邦子	菅林 直美	湯本 敦子 定方美恵子 林 ひろみ
広報	村本 淳子 大平 光子 松原まなみ	二村 良子 和智志げみ	
研究促進	工藤 美子 佐々木綾子 服部 律子		
学術・教育支援	町浦美智子 佐山 光子 吉沢豊予子	佐々木くみ子	
戦略的プロジェクト	遠藤 俊子 齋藤いずみ 山本あい子 成田 伸	常田 裕子 小嶋 由美	
CTG判読スペシャリスト育成	島袋 香子 末原紀美代	新井 陽子	
監事	前原 澄子 新道 幸恵		

2. 入会申請について

入会受付は常時行いますが、入退会の承認は隔月（9月・11月・1月・3月・5月・7月）の理事会で行います。奇数月15日までの申請分はその月の理事会の審議に諮ります。お早めにお申し込みください。入会申込書は学会ホームページよりダウンロードしてください。

3. 平成25年度会費の支払いについて

本学会は皆様の会費で運営されております。平成25年度会費未納の方は、本ニュースレターに同封している郵便振り込み用紙（青色払込取扱票）を用いるか、あるいは下記の口座番号へ会費の納入をお願いいたします。

一般社団法人化に伴い、口座番号を変更しておりますので、ご注意ください。

年会費：8,000円

1) 郵便振込の場合（青色振込取扱票）

口座番号：00120-8-386309

加入者名：一般社団法人

日本母性看護学会

2) 銀行振込の場合

ゆうちょ銀行 ○一九店

当座 0386309

(坂上明子理事)

編集後記

本学会は平成25年4月1日より一般社団法人日本母性看護学会として、新たなスタートを切りました。看護・医療を取り巻く情勢が急激に変化していく中、看護系学会が果たす役割はますます重要となっています。第15号ニュースレターが、本学会が取り組んでいくべき課題や戦略的な活動について、会員の皆様に広く知って戴く機会になれば幸いです。また、母性看護CNSとしての意義深い実践活動の記事もぜひご一読ください。なお、ニュースレターおよびホームページは会員の皆様への情報発信力を強化していきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せくださるようお願いいたします。（大平）

発行人：森 恵美

発行日：2013年12月1日

広報担当：大平光子、松原まなみ、村本淳子

編集担当：大平光子、和智志げみ

発行：一般社団法人日本母性看護学会

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内

一般社団法人日本母性看護学会事務局

Tel：03-5307-1175 Fax：03-5307-1196

E-mail：jsmn@univcoop.or.jp